

国際シンポジウム
日本語教育における多読・速読の理論と実践
—多読と速読で読みの流暢さを伸ばそう！—

多読教材の開発

坂野 永理（岡山大学）
2021年3月27日



1. 多読とは
2. 多読のための教材
(Graded Readers)
3. 日本語学習者用多読
教材の開発



多読とは

自分のレベルや興味
に合ったものを読む

辞書はほとんど必要とせ
ずに内容を理解できる。
知らない語彙は2%未満

多読とは学習者が一人で自分にとって適切なレベルの
多くの読み物を、声を出さずに読むことである。

(Nation & Waring, 2020)

黙読は音読より
はるかに速い

十分な内容理解のために必要な既知語率

- ・ 英語での研究

既知語率 98% (Hu & Nation, 2000)

既知語率 95% - 98%

(Laufer & Ravenhorst-Kalovski, 2010)

- ・ 日本語での研究

8割以上の内容理解のためには96%程度の既知語率が
必要

(小森・三國・近藤, 2004)

多読のための教材

Graded readers

外国語の学習者のために特別に書かれたり、改編された読み物。限られた語彙のみを使い、文法構造や話の筋書きも制限し、読み物の長さも調節してある。（Nation & Waring, 2020）



The Extensive Reading Foundation Grading Scale

Beginner				Elementary			Intermediate			Upper Intermediate			Advanced			Bridge			Near Native
Alphabet	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	
1	51	101	201	301	401	601	801	1001	1251	1501	1801	2101	2401	3001	3601	4501	6001	8001	12001-18000 and above
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50	100	200	300	400	600	800	1000	1250	1500	1800	2100	2400	3000	3600	4500	6000	8000	12000	

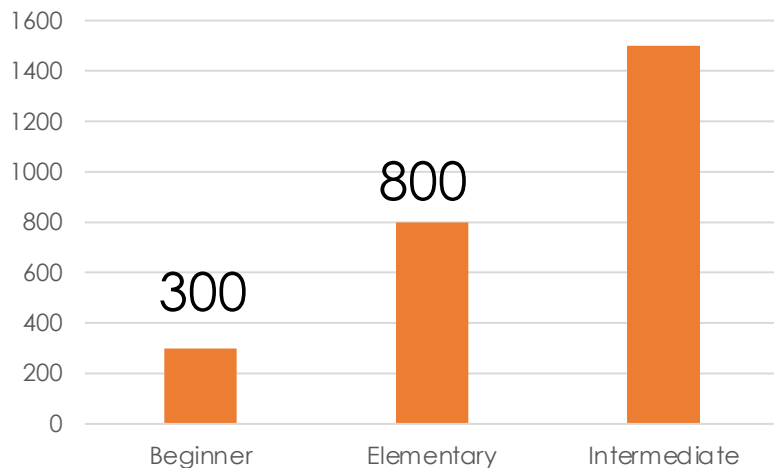
This scale is only for approximate leveling of Language Learner Literature by headword¹ counts by series. Some individual titles may need to move up or down as necessary. A list of where each publisher's Graded Reader series fits this scale is available at the website.



The Extensive Reading Foundation Grading Scale

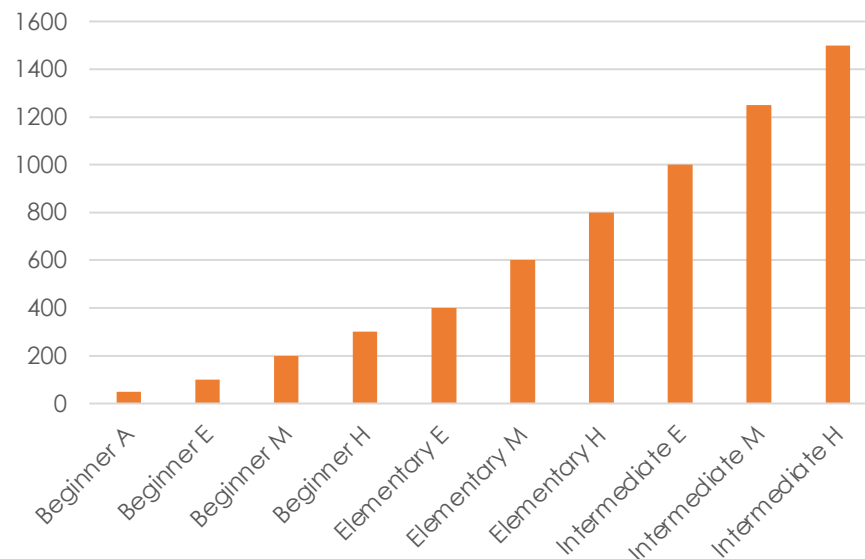
Beginner				Elementary			Intermediate			Upper Intermediate			Advanced			Bridge			Near Native
Alphabet	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	
1	51	101	201	301	401	601	801	1001	1251	1501	1801	2101	2401	3001	3601	4501	6001	8001	12001-18000 and above
50	100	200	300	400	600	800	1000	1250	1500	1800	2100	2400	3000	3600	4500	6000	8000	12000	

語数



レベルと語数1

語数



レベルと語数2

日本語の多読教材

- レベル別日本語多読ライブラリーよむよむ文庫
- にほんご多読ボックス



無料の読み物

<https://tadoku.org/japanese/other-grs> (NPO多言語多読)

がくしゅうしゃ きょうし つく よ
学習者や教師が作った読みもの



ひろしま きょうし つく よ
広島県の教師が作った読みもの

さく へいわ たいせつ つた にほんごきょうざい かい
(作: 平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会)



おおいたはつ よ
大分発わくわく読みもの

さく おおいたはつ よ かい
(作: 大分発わくわく読みものをつくる会)



たどく にほんごがくしゅうどくほん
多読 日本語学習読本



 **KCよむよむ** こくさいこうりゅうきんかんさいこくさい
(国際交流基金関西国際センター)

 **SC Tadoku Books** 

 **よもの読み物いっぱい**

 **さくら多読ラボ** たどく

 **Tadoku Books by Students** 

 **Let's Read Japanese**

 **マレーシアの先生が作った読みもの**  せんせい つく よ

日本語学習者用多読教材の必要性

- ・現在の多読教材だけでは圧倒的に数が少ない。
- ・特に初級学習者用の教材が不足。

→開発へ

池田庸子（茨城大学）

坂井美恵子（大分大学）

品川恭子（元カリフォルニア大学
サンタバーバラ校）

坂野永理（岡山大学）



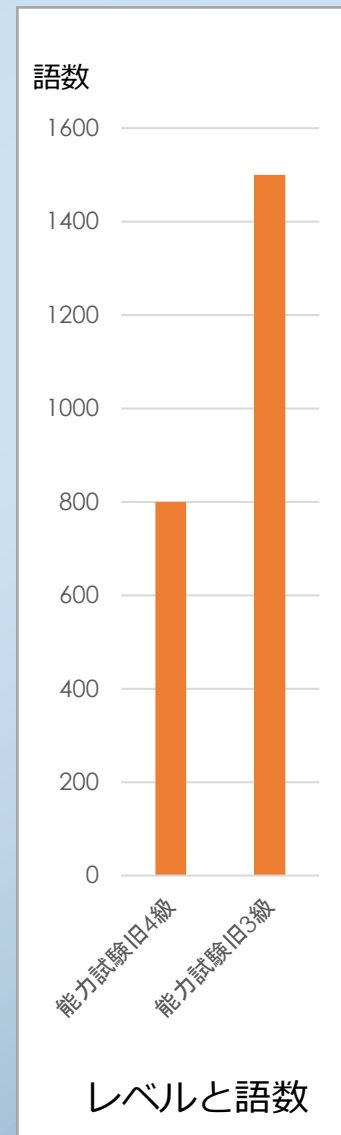
初級学習者用多読教材の開発

1. 語彙とレベル設定

英語の場合：

- ・ レベル設定（各レベルの語彙など）
- ・ 語彙リスト：使用頻度の高い語彙やさまざまな状況で使用される語彙からリストを作成

- ・ 「初級日本語げんき」の語彙リストを使用する。
- ・ 各課で読み物を作成する。初級前半などの大まかなレベル設定はしない。
- ・ その課までに習った語彙を95 %以上使用する。



2. 文法・表現など

- ・ その課までに習った文法・表現のみを使用する。
- ・ わかりやすく、簡単な文章で書く。

3. 文章の長さ

- ・ 読み物の長さは徐々に長くしていく。

4. トピック

- ・ さまざまなトピック

多読ではフィクション、ノンフィクション問わず、さまざまなジャンルやトピック、そして学習者自らに読みたいと思わせる面白い読み物を用意することが必要。(Nation & Waring, 2013)

- ・ 文化的に特異性の高いもの、背景知識が必要なものには注意

文化的な前提がない読者には読みの障害となる。

(Gillis-Furutaka, 2015)

多読教材タイトル

課	げんき1	課	げんき2
1	メアリーさんの友達	13	温泉(大分)
2	100円ショップ	14	清水寺
3	日曜日	15	金沢
4	ゴールデンウィーク	16	スノーモンキー
5	動物の島	17	歌舞伎の歴史
6	クラス旅行	18	メリーさんの電話
7	スーさんの猫	19	猿の手
8	道頓堀(大阪)	20	かっぱ
9	花見	21	死神
10	すもう	22	日本のおもしろい妖怪
11	ロバートさんのお兄さん	23	やなせたかし
12	ジョンさんのアパート探し		

5. ストーリー

- ・ 読んでおもしろいと思わせるもの

多読の読み物を書く時に最も大事なものはストーリー。おもしろくなければ読者は途中で読むのをやめる (Waring, 2003)

- ・ 物語の流れの変化に注意 例) 時系列ではなく回想が入る
- ・ 登場人物の数、話の複雑さに注意 (特に初級)

(Gillis-Furutaka, 2015; Nation & Waring, 2020)

6. 挿絵

- ・ 挿絵は原則毎ページに入れる

初級レベルでは、挿絵は話の理解度の非常に高い割合を占める可能性がある。話に合ったイメージの挿絵が得られるかどうかによって、読みやすさが変わる。(Nation & Waring, 2020)

- ・ 内容理解に役立ち、興味を沸かせる一方、障害となることもある。
(Gillis-Furutaka, 2015)

学習者の反応

回答者：「げんきI」を使った日本語の授業を履修している学習者31名。

方法： 学習が終わった課の読み物（1課につき2冊）を各自で読み、アンケートに回答。

面白さ：1 = とても面白い ~ 5 = とてもつまらない

難しさ：1 = とても難しい ~ 5 = とてもやさしい

長さ： 1 = とても長い ~ 5 = とても短い

アンケート結果

課	題名	面白さ	難しさ	長さ	語数
1	メアリーさんの友だち	2.13	3.20	3.23	163
2	100円ショップ	2.17	3.83	3.33	104
3	日曜日	2.04	3.64	3.39	100
4	ゴールデンウィーク	1.90	2.52	2.62	354
5	動物の島	1.86	2.41	2.62	405
6	クラス旅行	1.48	3.00	2.92	335
7	スーさんの猫	1.68	3.08	3.04	404
8	つり	1.50	2.96	2.88	513
8	道頓堀（大阪）	1.55	2.55	2.59	528
9	花見	1.38	3.17	2.92	535
10	クマールさんの冬休み	1.67	2.60	2.52	805

最初ほうの課の読み物は、後の課より面白くない。

難しさと長さには関連がある。難しさと情報の多さも関連があるようである。

学習者のレベルはさまざま。それぞれが自分のレベルに合った本を選ぶ必要。

引用文献

- 小森和子・三國純子・近藤安月子 (2004)「文章理解を促進する語彙知識の量的側面—既知語率の閾値探索の試み—」『日本語教育』125 : pp.83-92.
- Gillis-Furutaka, A. (2015). Graded reader readability: Some overlooked aspects. *Journal of Extensive Reading*, 3(1), 1-19.
- Hu, M., & Nation, I. S. P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 13(1), 403-430.
- Laufer, B. & Ravenhorst-Kalovski, G. C. (2010). Lexical threshold revisited: Lexical text coverage, learners' vocabulary size and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 22(1), 15-30.
- Nation, I. S. P. & Waring, R. (2013). *Extensive reading and graded readers*. Seoul: Compass Media.
- Nation, I. S. P., & Waring, R. (2020). *Teaching extensive reading in another language*. New York: Routledge.
- Waring, R. (2003). Writing a graded reader. Retrieved from <https://www.er-central.com/authors/writing-a-graded-reader/writing-graded-readers-rob-waring> (2021.3.26)